

第6学年 外国語科学習指導案

令和4年11月25日(金)

第5校時 13時30分～14時15分

6年1組 28名

指導者 有働 知生

平松 幸治

ALT 三重野 優子

- 1 単元名 Let's 家活! ～「押し鍋」を考えて由布院小学校の先生に食べてもらおう～
教材名 『NEW HORIZON』 Unit 6 「Let's think about our food.」

2 単元について

(1) 児童について

子どもたちは、これまでに自己紹介や先生クイズ、行きたい国の紹介、夏休みウソ日記紹介、大分県レッドデータ生き物クイズ大会など5単元の学習を終え、どの単元においても意欲的に取り組んできた。11月のアンケートでは、外国語科の授業を楽しんでいると感じている児童は92%だった。また、2学期に入ってから自分の言いたいことを進んで英語で伝えようと、コメントタイム(中間評価)で発言できる児童が増えてきた。

しかし、外国語科の目標にある「(他者に配慮しながら)主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度」という点においては課題がある。特に、聞く力に関しては、何度も話したり聞いたり書いたりした表現を聞き取る力(知識・技能)は伸びてきているが、相手が言ったことを聞き取り、言葉を返しながらか積極的に聞く力は児童間で差が大きい。さらに、ペア活動やスマールトークの時に、仲の良い友だちとは積極的に交流できても、日ごろ交流の少ない友だちとは進んで関わるできない実態がある。

(2) 教材について

本単元では、食べ物の産地を表す表現(～ is from …)と、食べ物がどの栄養素のグループに属するかの表現(～ is in the … group.)を新たに学ぶことになる。

そこで、本単元のゴールに「Let's 家活! ～「押し鍋」を考えて由布院小学校の先生に食べてもらおう～」という言語活動を設定した。鍋は、地域ならではの食材や調理方法、家庭ならではの工夫や食べ方などバラエティー豊かで、伝え合う面白さがある。また、冬の食卓に身近な鍋料理を題材にすることで、実際に自分で作って食べる楽しみも生まれてくる。さらに、家庭科で学習した内容と関連付けて、食材を栄養素ごとに分類することができ、児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材でもある。

(3) 指導について

本単元のゴールとなる言語活動の設定に当たっては、次の3つの条件を大切にしたい。

1	相手意識 目的意識	「由布院小の先生方を元気にするための鍋料理のレパートリーを増やしたい」と思っている由布院小の先生に、「押し鍋」を紹介する。
2	真正性 (ほんもの)	家庭科での栄養素の学習を関連させ、自分で考えた「押し鍋」を先生におすすめする。また、子どもたちは、自分で考えた「押し鍋」や、友だちの「押し鍋」を実際に家庭で作ることにもつなげられる。
3	指導事項との整合性	食材の栄養素などについて伝え合ったり、話したりする。 食材を通じた世界とのつながりを考える。

単元のゴールに向かって、子どもが主体的にコミュニケーションを図ることができるよう、導入時にゴールを確認し、学習の見通しをもたせるようにする。あらかじめ動画を撮影し、先生方から「鍋のレパートリーを考えてほしい」と直接投げかけてもらうようにする。子どもたちが「先生の力になりたいな」「大分県にはたくさんおいしい食材があることを伝えてあげよう」「栄養バランスを大切にしよう」「先生の今の体調を考えてみよう」等、相手意識や目的意識をもてるよう工夫する。また、児童がやってみたいと思うような活動にするため、家庭科の時間と関連付けるとともに、友だちと交流する際に会話が広がるよう、鍋を5部門に分け、好きな部門を選んでエントリーさせる。(①ヘル

シー鍋 ②ビューティー鍋 ③パワーアップ鍋 ④バラエティー鍋 ⑤スーパーホット鍋)

単元のゴールで自信をもって言語活動に取り組むことができるよう、言語材料について理解したり練習したりするための指導を繰り返し行う。本単元では、食べ物の産地を表す表現(～ is from …)と食べ物がどの栄養素のグループに属するかの表現(～ is in the … group.)を新たに学ぶ。この基本文は、T2と単語練習をしたり、ペアの友だちと「すごろくゲーム」をしたり、「ペアトーク」(自分の考えた「推し鍋」を友だちに聞いてもらう活動)をしたりする中で身に付けさせる。

児童観でも触れたように、本学級の児童は、相手が言ったことを聞き取り、言葉を返しながら積極的に聞く力について児童間で差が大きい。そのため、「すごろくゲーム」と「ペアトーク」ではペアで食材や産地を繰り返し尋ねたり、答えたりして表現を身に付けるようにするだけでなく、やり取りの中で(子どもの反応例→) What○○?/Why?/With○○?/など、オープンクエスチョン(自由に返答できる質問)を返したり、クローズドクエスチョン(Yes/Noで答えられる質問)を返したりして互いの考えや思いを答えたり、尋ねたり、オウム返ししたりしながらコミュニケーションをとっていく。

さらに、本単元では、児童の学習状況を適切に把握し、次時の指導につなげていくため、聞き取りテストを2回(第3時と第5時)実施する。

1回目の聞き取りテストでは、教科書P.50～51のStarting Outを活用しながら、基本文の聞き取り(知識・技能)の学習状況を把握する。2回目の聞き取りテストでは、ALTがゆっくり、はっきり話すまとまりのある話を聞いて、食材の産地(知識・技能)を聞き取らせるとともに、「①あなたなら話に出てきた鍋にどんなネーミングをつけますか?番号を選んで記入しましょう。」、「②その理由も日本語で書きましょう。」(思考・判断・表現)と問い、子どもたちの学習状況を把握し、学習及び指導改善につなげていきたい。

3 単元の目標

由布院小学校の先生たちの鍋のレパトリーを増やすために、食材の産地、栄養素などについて具体的な情報を聞き取ったり、伝えようとする内容を整理した上で推し鍋について話したりすることができるようにする。

4 関連する学習指導要領における領域別目標

聞くこと イ	ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることができるようにする。
話すこと(発表) ウ	身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	(知識) 推し鍋の食材、産地、栄養を尋ねたり答えたりする表現Where is ()from? ～ is from … ～ is in the … group.等について理解している。 (技能) 推し鍋の食材、産地、栄養素など、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。	友だちや先生の話す「推し鍋」についてよく知るために、推し鍋の食材、産地、栄養素など、具体的な情報を聞きとっている。	友だちや先生の話す「推し鍋」についてよく知るために、推し鍋の食材、産地、栄養素など、具体的な情報を聞き取るようとしている。
話すこと(発表)	(知識) 推し鍋の食材、産地、栄養を尋ねたり答えたりする表現Where is ()from? ～ is from … ～ is in the … group.等について理解している。 (技能) 推し鍋の食材、産地、栄養素などの表現を用いて、推し鍋を紹介する技能を身に付けている。	自分の考えた「推し鍋」を友だちや先生に知ってもらうために、推し鍋の食材、産地、栄養素などについて、伝えようとする内容を整理した上で自分の考えや気持ちなどを紹介している。	自分の考えた「推し鍋」を友だちや先生に知ってもらうために、推し鍋の食材、産地、栄養素などについて、伝えようとする内容を整理して紹介しようとしている。

6 指導と評価の計画（単元指導計画）（全8時間）

単元計画		評価の計画 ●：記録に残す評価		
単元のゴール Let's 家活！～「押し鍋」を考えて 由布院小学校の先生に食べてもらおう～		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
第1時	「食材の産地を伝え合おう」 食材の産地について、教師の Small Talk を聞いたり、教師 とやりとりしたりすること を通して、言い方がわかる。	【話すこと（発表）】 食材の産地を紹介 する技能を身に付 けている。		
（家庭科） 由布院小学校の先生に紹介する押し鍋を考える。				
第2時	「食材の栄養素を伝え合おう」 食材の栄養素について教師や 友だちと何度もやり取りする ことを通して、伝えることが できる。	【話すこと（発表）】 食材の栄養素を紹介 する技能を身に 付けている。		
第3時	「食材の産地や栄養素を伝え 合おう」 食材の産地や栄養素など、具 体的な情報について教師や友 だちと何度もやり取りするこ とを通して、聞き取ることが できる。 （教P.50～51 Starting Out を 活用したワークシートを使用）	●【聞くこと】 教師のやり取りを 聞き、産地や栄養 素を尋ねたり答え たりする表現につ いて理解し、それ らの具体的な情報 を聞き取ってい る。【ワークシート】		
第4時	「『押し鍋』の詳しい情報を 聞き出そう」 先生の押し鍋プレゼンを聞いて、 リアクション、オウム返 し、オープンクエスチョン、 クローズドクエスチョンなど を返しながらか聞くことが、話 し手の内容を深めたり広げたり することに気付くことができ る。		【聞くこと】 教師の話をよく聞 いて、もっと詳し く知るための質問 を自分で考えてい る。	
第5時 （本時）	「友だちの「押し鍋」がどんな 鍋なのか聞き出そう」 友だちの押し鍋プレゼンの内 容を深めるために、友だちの プレゼンを聞き取り、リアク ションや質問を返すことを通 して、新しい情報を引き出す ことができる。		●【聞くこと】 教師の「押し鍋」 についての話を聞 いて押し鍋のネー ミングを考え、そ の理由を日本語で 記述している。	●【聞くこと】 友だちの話す「推 し鍋」についてよ く知るために、推 し鍋の食材、産 地、栄養素など、 具体的な情報を聞 き取ろうとしてい る。
第6時	「友だちが質問してくれたこと を生かしてプレゼンを完成 させよう」 基本文に鍋の情報を付け加え て、友だちにオリジナル鍋を 伝えたり、話す順番を工夫し たりすることができる。		【話すこと（発表）】 自分の考えた「推 し鍋」を詳しく知 らせるために、推 し鍋の食材、産 地、栄養素以外の 情報を付け加えて いる。	

第7時	「押し鍋紹介動画を作ろう」先生方に「押し鍋」のことを知ってもらうために、内容を整理した上で押し動画を撮影することができる。	●【話すこと（発表）】 押し鍋の食材、産地、栄養素を正確に話すことができる。	●【話すこと（発表）】 自分の考えた「押し鍋」を先生に知ってもらうために、押し鍋の食材、産地、栄養素などについて、伝えようとする内容を整理して紹介している。	●【話すこと（発表）】 自分の考えた「押し鍋」を先生に知ってもらうために、押し鍋の食材、産地、栄養素などについて、伝えようとする内容を整理して紹介しようとしている。
第8時	「漢字熟語と英語について知り、スイスについて理解しよう」			【聞くこと】 外国の背景にある文化に対する理解を深めるために、海外の国について短い話の概要を捉えようとしている。

7 本時の指導（5/8）

(1) 題目 友だちの押し鍋の情報を引き出そう

(2) 本時のねらい

友だちの押し鍋プレゼンの内容を深めるために、友だちのプレゼンを聞き取り、リアクションや質問（Why mushroom? Why beauty nabe? 等）を返すことを通して、新しい情報を引き出すことができるようにする。

(3) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	備考・評価
	・Greeting 挨拶をする。	・全体に挨拶し、個別に数名の児童に挨拶する。 ・天気と日付の確認。	
3	【Small Talk】	○What did you eat last night? 言いたいけど言えない表現があれば全員で考える。	
1	○最終ゴールの確認をする。	○最終ゴールの確認をさせる。	
単元のゴール ～「押し鍋」を考えて由布院小学校の先生に食べてもらおう～			
4	【Practice】 ○T2やALTの後に続けて発音する。	○なべのタイトル、食材、産地の表現を復唱させる Where is the (pork) from? The (pork) is from Kagoshima. What color group in? (Pork) is in the red group.	
2	○前時を振り返り、本時の活動について知る。	○前時ではALTの押し鍋を聞き、質問することで、産地や栄養素以外の情報が聞き出せることを確認した。本時は、友だちの押し鍋を聞き、押し鍋の情報をたくさん聞き出すことを伝える。 ○本時のめあてを確認する。	
Today's goal 友だちの「押し鍋」がどんな鍋か詳しく聞き出そう。			
5	【Activity】 ○3人グループで、1人目が押し鍋を紹介する。	○3人グループをつくり、1人が発表し、残り2人は鍋の情報をたくさん聞き出す。先生方に「そんな良さがあるならぜひ、この押し鍋を作って食べたい!」「これなら体が元気になりそうだ。」など思ってもらえるよう伝える。	

		<p>※T2は児童支援。ALTとT1は、押し鍋の情報を詳しく聞き出している児童を見つける。</p> <p>話題に出てきそうな表現 (予想) 食材を選んだ理由、味、食べ方(どんなタレにつけるか、シメには何を入れるか)など。 ・リアクション (例) オウム返し、Nice!, Good, Ok!, I see, Wow!など。</p>	
8	<p>【コメントタイム①】</p> <p>○1人目の紹介の振り返りをする。</p> <p>○2人目・3人目が押し鍋を紹介する。</p>	<p>○中間評価①</p> <p>①聞き役の時に、どんな情報を聞き出せたか尋ねる。先生方が「押し鍋を作りたい、食べてみたい」と感じてもらえる良い鍋があったかどうか発表させる。どんな質問により、その魅力を引き出したのか発表させる。</p> <p>②言いたかったけれど言えなかったことを出させて、全体で考える。質問した児童は声に出して練習する。</p> <p>③尋ねられたことは、自分のプレゼンに付け加えても良い。</p>	
8	<p>【コメントタイム②】</p> <p>○2人目、3人目の紹介の振り返りをする。</p>	<p>○中間評価②</p> <p>○中間評価①の①②と同様。</p> <p>○押し鍋の魅力度が上がったと思う児童に挙手をさせる。誰のどんな質問がきっかけで話が膨らみ、押し鍋の情報が増えたか発表させる。質問をした児童にフォーカスを当て紹介する。聞き取った話が何だったのか、どんなことを考え、どんな質問をしたのか全体で紹介させる。</p>	
5	○個人録音	○友だちが聞き出してくれた情報を基本文に1文付け加えて話したり、友だちに聞いてもらったことで前時よりもすらすらと話せるようになったりしたことを実感させる。	ロイロノートで提出
6	<p>【Let's Listen】</p> <p>○聞こえたことを記入したり、聞いて考えたことを書いてみる。</p>	<p>○聞き取りテストをさせる。</p> <p>・「聞くこと」の知識・技能 T2とALTがゆっくり、はっきり話す短い会話を聞いて分かった食材の産地を記入させる。</p> <p>・「聞くこと」の思考・判断・表現 「あなたなら話に出てきた鍋にどんなネーミングをつけますか？番号を選んで書きましょう。」、「その理由も日本語で書きましょう。」と問う。</p>	<p>【聞くこと】</p> <p>教師の話を聞いてわかった食材の産地を記入し、ネーミングを選んで理由を日本語で記述している〈ワークシート〉</p>
3	<p>【Reflection】</p> <p>○本時の活動を振り返る。</p> <p>【Greeting】</p> <p>○挨拶をする。</p>	<p>○本時のめあてに沿って振り返らせ、書くように促す。聞き手の活躍にフォーカスをあて、考えて聞くことの大切さを確認する。</p> <p>・次の授業の見通しをもたせて、挨拶をする。</p>	振り返りシート

■単元終末の言語活動において期待する具体的な児童の姿

Hello. I'm Mieno Yuko.
This is Christmas variety nabe for Asuka sensei.
Cheese, broccoli, chicken, tomato and Chinese cabbage.
The tomato is from Oita.
The tomato is in the green group.
Tomato have lycopene.
Tomato is good for sunburn.
You can eat cheese risotto last.
Let's try this nabe.